居留地時代の面影を探して

山手外周を辿る

兵藤和男「本牧風景」　(1962 横浜美術館所蔵)

キーワードは**ブラフ**（"Yamate Bluff"あるいは "The Bluff"）。ここでは外国人居留地のあった現横浜市中区山手町と同義です。

外国人墓地や西洋館の集中する観光エリアは山手町の一画です。でもこの案内では掠める程度で、主に山手町外周付近を辿って、居留地時代の面影などを観察します。

起点は JR線石川町駅、**終点はみなとみらい線元町・中華街駅**です。逆コースも可能ですが、多少ルートが判りにくくなります。

距離は約 6km、標高差は約 40m、歩行時間は約 2時間 20分ですが、観察の時間は含みません。途中休憩は山手公園をお薦めします。

四次元的路上観察の自主活動グループ

時をかけるヨコハマ

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats! ハマトリーツ！

1. 山手町

1.1.山手町と路上観察ルート

山手町はかつてブラフと呼ばれます。山手はエの方を意味します が、ブラフは切り立つ崖、すなわち地形を意味します。

図 1 山手町外周とルート

山手町は山手本通りと谷戸坂道りに沿って開けています。観光エリアを除けば閑静な住宅街です。

1.2.山手町の坂道

山手町の発足は、1899(明治 32)年の条約改正で外国人居留地が廃止された少し後のことです。それまでは谷戸坂町、山手本町通、富士見町、内台坂、西坂町（現乙女坂付近）、地蔵坂、小坂町、大丸坂、撞木町、環町、公園坂、西野坂（現フェリス坂付近）、汐汲坂、高田坂、三ノ輪坂、稲荷町、南坂（旧ヒンジョヒヅの坂付近）、貝殻坂、宮脇坂、陣屋町、諏訪町通、弓町、畑町、矢ノ根町、泉町、林町の 26カ町。それにしてもお山手、坂のつく町名のなんと多いことでしょう。地名としてそれに残るところもあります。

図 3 地蔵坂日光屋敷
（1900-1922年撮影 ）

大正 9）年にテンプルコーヒホテルとして開業した通称「日光屋敷」がありました。往時の賑わいの一端がうかがえますが、関東大震災で倒壊しました。

地蔵坂は難所で、荷車や馬力車による物資輸送などは、上りは後押し、下りは後からブレーキをかける人が必要でした。交通整備が一帯を活性化しました。しかし物資輸送が貨物自動車に変わっていく昭和初期に地蔵坂は衰退します。

2.2.山手町 1 番

地蔵坂上交差点の一角、横浜女学院テニス コート一帯が山手町の 1 番地。

図 4 山手町 1 番地（近影 ）

2.ルート概説

2.1.地蔵坂

かつて地蔵坂を上り校道を下る校道を下り道筋が関内・本牧方面を結ぶ主要道路で賑わいました。地蔵坂下の一角は銀座松屋（旧鶴屋呉服店）発祥地跡です。

図 2 横浜石川地蔵坂
（1900-1922年 ）

地蔵坂上に、当初は個人住宅で、1920（大正 9）年にテンプルコーヒホテルとして開業した通称「日光屋敷」がありました。

図 3 地蔵坂日光屋敷
（1900-1922年撮影 ）

「山手風景」写生地は、校道を下り始めた山手町 2 番地付近です。「ブラフ」とのお人の述懐があります。いま気がする」

図 5 國領經郎「山手風景」
（1937年 ）

2.3.國領經郎「山手風景」写生地

図 4 山手町 1 番地（近影 ）

要の 1 番、観光エリアがいま山手町の 1 番地です。

2.4.山手公園

日本初の洋式公園・ヲ ニス発祥の地・ヒヒラヤ スギが最初に植えられた地です。

図 6 横浜山手公園（1900-1922 年 ）

1870(明治 3)年、日本の公園制度が成立する 3 年前に完成しました。

図 7 ヲニス発祥記念館

居留地制度が日本人の利用を制限しました。往時は「PUBLIC GARDEN」とか「BLUFF GARDEN」と呼ばれました。

隣接のフェリス女学院大学外周の大規模なブラフ積み擁壁とブラフ溝は、居留地時代の雰囲気を漂わせる史跡と言えます。

2.5.君が代由緒地の妙香寺

まホテルはありません。画家 18歳の作品、1937(昭和 12)年の風景です。

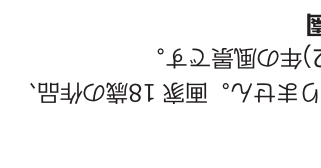


図 8 妙香寺門前

1969(明治 2)年、薩摩藩は年少の藩兵 30名を選び、イギリス軍楽を伝習させることにしました。一行は 10月に横浜到着、宿舎の妙香寺に入ります。先生はイギリス陸軍軍楽長フェファン。フェファンは薩摩藩士に国歌制定を勧めて国歌が誕生します。しかし現在の国家とは異なります。

2.6.天沼ビヤ酒のキリン公園

いまは使われない入口の門柱に「麒麟公園」の表札が見られます。かつてこの辺りはテンプルビールの製造所がつくられました。

図 9 「日本最初の麦酒工場碑

2.7.山手と画家・兵藤和男

兵藤は、横浜市立北方小学校の東側、山手町 260番地代後半の一帯で良く写生しました。

小学校脇、一帯への入口付近で兵藤は、シイの古樹をモチーフにして生涯に 4 回の作品を制作しています。一作は「樹と道（1963年 ）」、ただし書籍でのお確認に止まっています。 2 本あったというの古樹も今は残りません。

「本牧風景（表紙参照 ）」は、この辺りから本牧の街を遠望した作品でしょう。遠くの丘、左右から迫るＶ字地形、斜面にこの集まる民家。いまこの風景は見当たりません。いずどこかに存在するでしょうか。昔に思いを馳せるのも街歩きの楽しみです。

2.8.かつての海岸線

神奈川近代文学館前の海側の階段を下った崖際が旧海岸線です。

図 10 一川芳員「再刻横浜明細全図（部分 ）」
（1868-1888）

先に進む と、港の見えを丘公園を見上げることができます。堀川に近い一角に、往時の護岸が残っています。しかし、いまは工事中（2017年 6月末現在 ）で見られません。

3. 豆知識

3.1.打越切通しと洋画家・五姓田義松

図 11 打越切通し

山手町西側の打越切通し。五姓田義松 (1855(安政 5)-1915(大正 4)年)は打越 (橋の少し西側)で起居、終焉を迎えます。付近に名残はありません。切通しは関東大震災の復興事業、五姓田が亡くなって 13年後に竣工します。

3.2.山手町と小説家・谷崎潤一郎

図 12 谷崎潤一郎邸跡付近

谷崎は 1921 (大正 10)年 8 月、小田原から本牧宮原に転居。元町の大正活映の文芸顧問として映画制作に携わります。1922　(大正 11)年 10月、山手町 267番地に転居。欧米の生活スタイルに惹かれたようです。1923(大正 12)年 9 月、関東大震災に遭遇して関西に転居。今は個人宅で名残は確認できません。

3.3.「山手外周を辿る」全周ルート

図 13 敷地境界石

図 1参照。谷崎潤一郎邸跡からヘボン博士邸跡に向かわず、見晴らしトンネル南側に下り、北方 (きたかた) に進みます。左手にブラフを見ながら進み、ブラフが尽きたら折り返してワシン坂を上ります。

「ワシン坂湧水」「ブラフ積擁壁」。閑静な住宅街で、改めて山手居留地が住宅街であったことを思い出すでしょう。周囲が醸し出す雰囲気も路上観察の対象です。「ベイブリッジ」「敷地境界石 142番」、山手ロイストン教会前を左折して 100mほど進むと「ヘボン博士邸跡」。ここで標準ルートに戻ります。

4. 参考文献

(1) 中区制 50周年記念事業実行委員会編著
「横浜・中区史：人びとが語る激動の歴史」
(1985 中区制 50周年記念事業実行委員会)
(2) “中区わが街 ”刊行委員会編「中区わが街
中区地区沿革外史」 (1986 横浜市中区)
(3) 横浜市ふるさと歴史財団編「横浜歴史と文化
開港 150周年記念」 (2009 有隣堂)
(4) 小寺篤「横浜山手変遷誌」 (1980 山手資料館)
(5) 北湯口孝夫・佐々木勲「兵藤和男作品集 ―
求道・求美の造形」 (1997 センター画廊)
(6) 北湯口孝夫「兵藤和男と横浜の画家たち」
(2007 (株)如月出版)
(7) (株)東京美術編集制作「兵藤和男画集」
(1874 愛宕山画廊)
(8) 宮野力哉「美術のなかの横浜」 (1994 有隣堂)
(9) 横浜文学散歩編集委員会「横浜の文化 No.13
横浜文学散歩」 (1988 横浜市教育委員会)

5.引用

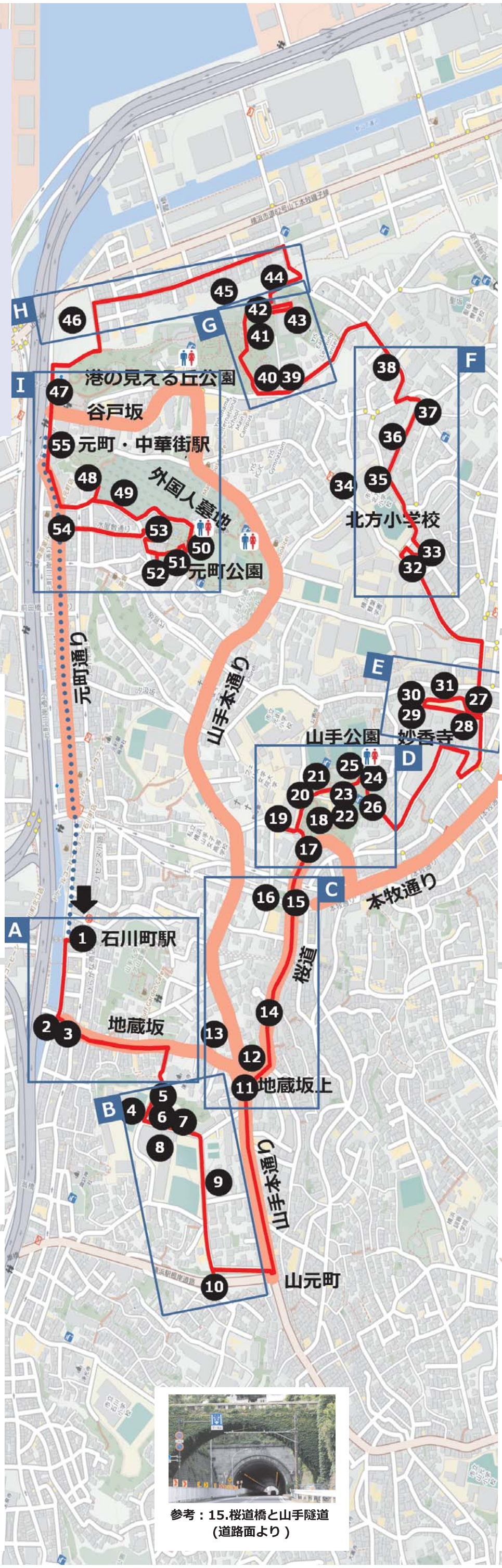
表紙 兵藤和男「本牧風景」
(1962 横浜美術館所蔵)
図 2 「横浜石川地蔵坂」
(1900-1922 横浜市中央図書館所蔵)
図 3 「横浜地蔵坂」
(不明 横浜市中央図書館所蔵)
図 5 國領經郎「山手風景」
(1937 横浜美術館所蔵)
図 6 「横浜山手公園」
(1900-1922 横浜市中央図書館所蔵)
図 10 一川芳員「再刻横浜明細図 (部分)」
(1868-1888 横浜市中央図書館所蔵)

四次元的路上観察案内書「2.山手外周を辿る」 ●企画・編集：ハマトリーツ！(横浜トリエンナーレサポーター) 自主活動グループ「時をかけるヨコハマ」(内藤恵実 ,原田貴己 ,深野一穂 ,宮崎秀一 ,ゆかりん ,レイミホ ,匿名希望 22名)●イラスト制作 (山下昇)●発行日：2017年 9月 18日 ●発行・問合せ：横浜トリエンナーレサポーター事務局 [横浜市西区みなとみらい 3丁目 4-1 横浜美術館横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内 Tel:045-228-7816 Mail:info@yokotorisup.com] ●ハマトリーツ！ 公式 WEB:http://www.yokotorisup.com/

6. ルート案内

●歩きはじめる前に

・**起点：**JR線石川町元町口駅
終点：みなとみらい線元町・中華街駅
距離：約 6km、標高差約 40m、
歩行時間約 2時間 20分、ただし観察時間等を含みません
・区間名 (A～I)の後の（）内は、およその区間所要時間です
・妙香寺付近で観察中止の場合は、本牧通りで公共バスを利用可能です
・**ルートの左右にずれた番号は、観察物が左あるいは右側にあることを示します**
・**観察点番号の前の記号は、次を意味します**
★案内あり、●パブリックアート、■歴史・史跡
・**点線で表記されたルートは任意です**
・**観察点の太字表記は必須、細字表記は任意です**
・**次の次の観察点まで確認して進んで下さい**



A.JR 線石川町駅 ～ 乙女坂入口（9 分）

かつて地蔵坂・桜道が関内と本牧を結ぶ幹線道路でした。
1927(昭和２)年に関東大震災の復興工事で山手隧道 (ずいどう)が完成します。その東側の第２山手隧道は 1911(明治 44)年に完成しています。隧道は、人荷の流れを変えます。山越えより早いし楽ですから。

1.起点：JR石川町駅元町口改札口
中村川側の歩道を左へ
■**2.濡れ地蔵** (亀の橋交差点東詰め)
■**3.鶴屋呉服店跡地** (遺構等なし、図２参照)
濡れ地蔵に向かって左側角。**銀座松屋の前身**

B. 乙女坂入口～打越橋（12 分）

4.横浜女学院中学校高等学校
■**5.敷地境界石 214番** (横浜共立学園塀沿い)
■**6.山手 214番館**（横浜共立学園敷地内)
旧スウェーデン領事公邸
■**7.敷地境界石 214番** (214番館正門右)
■**8.横浜共立学園本校舎側面** (214番館向かい)
W.ヴォーリズ設計のハーフティンバー様式
■**9.ウォルター・ウェストン邸跡** (遺構等なし)
日本近代登山の父と言われる。宣教師。
横浜共立学園正門正面の山手町 219番地
■**10.打越橋・打越切り通し**

C. 打越橋～山手公園登り口（21 分）

11.地蔵坂上交差点
■**12.山手町１番地**
地蔵坂交差点の一角、横浜学園運動場一帯、ここが山手町の基準。ここから港の見える丘公園方面に番地が振られたが、その後は跳び跳びになった
■**13.テンプルコートホテル跡 (通称日光屋敷)**
(遺構等なし、図 3参照)
14.國領經郎「山手風景」写生地 (図 5参照)
桜道を下り始めた山手町２番地付近
■**15.桜道橋**
震災復興事業で山手隧道と共に 1928(昭和 3)年に完成
■**16.山手隧道 (ずいどう)(桜道橋より観察)**

参考：15.桜道橋と山手隧道 (道路面より)

D. 山手公園上り口～公園裏口（9 分）

■**17.日本最初の下水道碑 (公園上り口)**
■**18.ブラフ溝 (階段脇)**
右手は既に山手公園
■**19.大規模なブラフ溝とブラフ積み擁壁**
階段を上り切ったフェリス女学院大学外周
■**20.恐らく 37番地の敷地境界石**
擁壁が弧を描く辺りに擁壁の一部を切り欠いて
■**21.日本庭球発祥の地碑 (山手公園入り口)**
■**22.ヒマラヤスギ (一帯)**
この地に日本で初めて植えられた
■**23.テニス発祥記念館（見学自由）**
■**24.山手公園発祥 120周年記念碑**
■**25.山手 68番館（見学自由）**
1934(昭和 9)年建造、管理棟として利用
26.奏楽堂
この後裏口を出て階段を下る

E. 山手公園裏口～妙香寺出口（16 分）

■**27.君が代由緒地碑 (道路際)**
■**28.ブラフ積み擁壁 (山門階段脇)**
■**29.吹奏楽発祥の地碑 (客殿前植え込み)**
■**30君が代発祥の地碑 (客殿前植え込み)**
■**31.ブラフ積み擁壁 (自動車道脇)**

F. 妙香寺出口～ヘボン旧居跡（19分）

■**32.日本最初のビール工場碑 (公園内)**
■**33.麒麟麦酒開源記念碑 (公園内)**
■34.ビール井戸 (北方小学校正門近くの道路際)
35.「兵藤和男・樹と道」写生地 (丁字路付近)
36.敷地境界石 268/269番地 (電柱の背後)
■**37.谷崎潤一郎邸跡 (267番、現在個人宅あり)**
■**38.ヘボン博士旧居跡 (門柱にプレート)**

G. ヘボン旧居跡～ちどり坂上（17分）

■**39.敷地境界石 (大韓民国領事館の進行方向角)**
■**40.山手 111番館**
41.大佛次郎記念館
42.霧笛橋
橋の手前に「日本初のワルツ」碑
43.神奈川近代文学館

H. ちどり坂上～谷戸坂下（17 分）

44.ちどり坂 (霧笛橋下を潜りぬけて階段)
45.崖 (ブラフ)とかつての海岸線 (崖下)
港の見える丘公園を見上げる
■46.旧イギリス波止場
居留地時代の護岸は工事中で見られない。

Ｉ．谷戸坂下～元町公園（17 分）

■**47.メダリオン (フランス橋下)**
■**48.道路・居留地境界石 (見尻坂上り口)**
■**49.生麦事件犠牲者・リチャードソン墓**
道路際から墓地内を観察
■**50.ジェラールレンガ工場跡案内**
元町公園プール正面
■**51.我が国塗装発祥の地碑**
■**52.大正活映撮影所跡碑**
谷崎潤一郎が勤務した
■**53.ジェラール水屋敷貯水槽跡**
54.終点：元町本通り
55.みなとみらい線元町・中華街駅元町口